

応用科学学会 **秋季シンポジウム 2012** 参加申込書(FAX用)

2012年11月2日(金) 東京工業大学 百年記念館 フェライト会議室

以下にご記入の上、ファックスにてお送りください。

FAX送信先: 045-545-8107

申込み締切: 2012年10月31日

- ①、②の各項目について、を付けてください。(不参加の場合は、「参加しない」にチェックをお願いいたします。)
- 講演内容は、本案内パンフレットの中ページにてご確認ください。
- 参加費 1,000 円 (会員無料) でご参加いただけます。参加費は当日受付にて徴収いたします。
秋季シンポジウムに参加した後に当学会へ入会される場合は、参加費 1,000 円を 2012 年度会費 (2013 年 3 月 31 日まで) に振り替えさせていただきます。
- 定員に達し次第締切とさせていただきます。空き状況等の最新情報は当学会 Web サイトまたはお電話等にてご確認ください。
- 参加票は E メールにてお送りいたします。10/31 までにお手元に届かない場合は、事務局までお問い合わせください。

① 13:30-18:00 講演会・パネルディスカッション (定員 100 名) 参加する・参加しない

② 18:30-20:30 懇親会 (会費: 3,000 円 学生は 1,000 円) 参加する・参加しない

お名前 _____

会社名・学校名 _____

ご所属 _____

ご役職 _____

Tel _____

Fax _____

E-mail _____

※お送りいただいた個人情報は、当学会の運営以外の目的には利用いたしません。

■ 会場へのアクセス

東京工業大学 百年記念館
 東京都目黒区大岡山 2-12-1

【交通】

東急目黒線・大井町線
 大岡山駅下車 徒歩 1 分
 東京工業大学 大岡山キャンパス 正門わき

● シンポジウム会場: 3 階 フェライト会議室



お問い合わせ

応用科学学会 〒223-0052 横浜市港北区綱島東 6-3-20 株式会社エヌエフ回路設計ブロック内
 Tel / Fax : 045-545-0133 E-mail : info@ohyokagaku.org <http://www.ohyokagaku.org/>



応用科学学会

秋季シンポジウム 2012

**「世界に通用する日本の技術
 — 過去を振り返り、未来を見つめて —**

2012年11月2日(金) 13:30~18:00

東京工業大学 百年記念館 フェライト会議室

ある家電メーカーの20世紀末頃の広告で、「ブラウン管テレビは20世紀に残し、21世紀には液晶テレビを持って行きます。」と宣伝し、見事にすべてのテレビが液晶化されました。それから僅か十余年、液晶テレビをはじめ、太陽光パネル、集積回路など、日本が最先端を走っていた技術が、今や海外の企業にその座を奪われ、工場の売却、海外からの資金援助を乞うなど、かつての栄光は見る影もありません。なぜ、このような状況に陥ったのか、また、今後日本の技術を世界に発信するために何をなすべきかを著名な講師陣による講演、パネル討論を通して考えてみたい、このシンポジウムを企画いたしました。お問い合わせの上、是非ご参加ください。

参加費 会員: 無料 / 非会員: 1,000円

秋季シンポジウムに参加した後に当学会へ入会される場合は、参加費1,000円を2012年度会費(2013年3月末まで)に振り替えさせていただきます。この機会に是非当学会へのご入会をご検討ください。(シンポジウムにて入会申込み受付)

プログラム

定員
100名

13:00~	受付開始
13:30~14:30	■ 基調講演 『デジタルTV日本方式の世界展開と背景』 株式会社野村総合研究所 顧問 / 東京工業大学 客員教授 / 北陸先端科学技術大学院大学 客員教授 寺崎 明氏
14:30~15:15	■ 講演1 『技術立国日本の再興を目指して — デジタル放送の研究開発を通して —』 早稲田大学 理工学術院 客員教授 山田 幸氏
15:15~15:30	休憩
15:30~16:15	■ 講演2 『4Kデジタルシネマの開発・普及とそのインパクト』 慶應義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授 太田 直久氏
16:15~17:00	■ 講演3 『コンピュータの誕生と発展の歴史 — スーパーコンピュータの軌跡を中心に —』 コンピュータシステム&メディア研究所 主宰 山田 昭彦氏
17:00~18:00	■ パネルディスカッション 『世界に通用する日本の技術 — 過去を振り返り、未来を見つめて —』 モデレータ 藤井 信生 (応用科学学会会長) パネリスト 寺崎 明氏、山田 幸氏、太田 直久氏、山田 昭彦氏、高橋 常夫 (応用科学学会副会長)、平野 健治 (応用科学学会理事)
18:30~20:30	懇親会

講演

13:30-17:00

基調講演

13:30-14:30



『デジタルTV日本方式の世界展開と背景』

株式会社野村総合研究所 顧問
東京工業大学 客員教授 北陸先端科学技術大学院大学 客員教授

寺崎 明氏

エネルギー資源のない我が日本国においては、日本の今後の人口減少と世界の人口増加を考えると、外貨を稼ぐ手段としては、戦略的な日本技術のグローバル化が必須である。

技術のグローバル化を考えると、国際標準の覇者は市場において強い。そのため、日本は、デファクトスタンダード(事実上の標準)を含めた国際標準に対する取り組みを強化しなければならない。

私は、2008年から7月から2010年7月まで、総務省の総務審議官(Vice-Minister for Policy Coordination)として、地上デジタル放送日本方式の規格普及を官邸、外務省、各国の大使館、財務省、NHK、民放各社、関連メーカ各社とともに南米に働きかけ、日本方式を実質の南米標準にすることができた。

講演では、そのノウハウをお話するつもりである。

講演1

14:30-15:15



『技術立国日本の再興を目指して —デジタル放送の研究開発を通して—』

早稲田大学 理工学術院 客員教授

山田 宰氏

最近の我が国の国際比較項目の多くは下降傾向にある。特に得意であったエレクトロニクス業界は散々の状況にある。日本人は細かいことは得意であるが、大きな問題になると組織の弱さが出てくる。

技術イノベーションが盛んに議論されているが、技術イノベーションの問題ではなく、組織の最適運用すなわち組織イノベーションができていないことに起因しているように思える。

NHK放送技術研究所でのデジタル放送方式の研究開発と研究管理、メーカでの研究管理、あるいは大学での学生との対話などを通して、多くのことを学び経験してきた。40年間にわたるサラリーマン生活を振り返って、技術立国を目指した組織の在り方について提言する。

講演2

15:30-16:15



『4Kデジタルシネマ技術の開発・普及とそのインパクト』

慶應義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授

太田 直久氏

本講演では、ハリウッドを中心に始まり、世界的に普及することとなった映画のデジタル化の動きと、その背景となった技術開発、特に4K映像の開発をリードした日本の動きとそのインパクトについて述べる。2000年頃、ハリウッドの映画スタジオは、いずれ、映画はフィルムからデジタルに進化すると予想し、自らの戦略としてその標準を策定することとした。彼らはフィルムが100年続いたように、今後100年通用するデジタルシネマ標準策定を志向した。その基準策定において、日本で開発されていた4Kデジタル映像技術がどのように取り入れられ、最終的に標準に含まれることとなったのか、さらにその結果として現在に至るデジタル映像機器の発達、制作ワークフロー、配信システムなどへの影響について述べる。

講演3

16:15-17:00



『コンピュータの誕生と発展の歴史 —スーパーコンピュータの軌跡を中心に—』

コンピュータシステム&メディア研究所 主宰

山田 昭彦氏

コンピュータは1940年代半ばに誕生し、1960年代には集積回路技術を用いた汎用コンピュータが登場した。大規模な科学技術計算用には、汎用コンピュータと並行してスーパーコンピュータの開発が行われた。技術計算にはベクトル型のものが高性能を発揮し、その後の主流になった。

半導体技術の進歩により1970年代にはマイクロプロセッサが登場し、その高性能化とともに米国では多数のスカラプロセッサによる超並列型スーパーコンピュータ開発が推進された。超並列型は大きさ、消費電力、価格などの面で有利なため、スーパーコンピュータの主流になりつつある。

コンピュータの発展の歴史を、スーパーコンピュータを中心に振り返ってみたい。

パネルディスカッション

17:00-18:00

『世界に通用する日本の技術 —過去を振り返り、未来を見つめて—』

モデレータ 藤井 信生(応用科学学会会長)

パネリスト 寺崎 明氏

山田 宰氏

太田 直久氏

山田 昭彦氏

高橋 常夫(応用科学学会副会長)

平野 健治(応用科学学会理事)



秋季シンポジウム 2011 パネルディスカッション

お申し込み方法

秋季シンポジウムへの参加希望の方は、当学会サイトの専用フォームまたは裏面の「参加申込書 (FAX用)」にて、お申込みください。

- 専用フォームおよび参加申込書では、以下の申込みが可能です。
① 講演会・パネルディスカッション ② シンポジウム終了後の懇親会
- 参加費は、1,000円(会員は無料)です。(当日受付にて徴収)
秋季シンポジウムに参加した後に当学会へ入会される場合は、参加費1,000円を2012年度会費(2013年3月31日まで)に振り替えさせていただきます。
- 懇親会は別途参加費が必要です。会員・一般:3,000円/学生:1,000円(当日、懇親会会場にて徴収)
- お申し込み締切:2012年10月31日(定員に達し次第締切とさせていただきます。)
申込み状況のご確認は、下記のお問い合わせ先まで。

お問い合わせ先

■ Tel: 045-545-0133 ■ E-mail: info@ohyokagaku.org ■ Website: http://www.ohyokagaku.org/